

1. 企画情報部

1 機関評価委員会及び調査研究企画・評価委員会の開催

平成29年7月27日（水）に第2期中期運営計画（H28～H32，五カ年計画）及び年度実施計画の取組状況や目標の達成度についての評価を受けるため機関評価委員会を、また当研究所が行う調査研究事業についての評価を受けるため調査研究企画・評価委員会を開催した。

機関評価委員会は、厚生総務課と衛生研究所が推薦する専門委員7名（地域保健・公衆衛生分野の専門家・有識者5名及び内部委員2名）と科学技術振興課が推薦する共通委員2名の計9名により構成される。調査研究企画・評価委員会は、機関評価委員から共通委員を除いた計7名により構成される。

(1) 機関評価委員会

ア 評価項目

i) 県民に対して提供する業務

調査研究，試験検査，研修指導，公衆衛生情報等の収集・解析・提供

ii) 業務の質的向上，効率化のために実施する方策

全体マネジメント，他機関との連携，内部人材育成

イ 評価基準

項目別評価については、達成度と難易度を考慮して判断を行う。難易度はH（高）・M（中）・L（低）の3段階、達成度は4段階（AA・A・B・C）の基準を用い、これらを勘案した上で、下表を参考に判断する。

難易度	達成度			
	AA	A	B	C
H	AA	AA	A	C
M	AA	A	B	C
L	A	B	C	C

総合評価については、項目別評価の評点を数値化（AA：4点，A：3点，B：2点，C：1点）し、集計した結果の平均を4段階（AA：3.5点以上，A：2.5点以上3.5点未満，B：1.5点以上2.5点未満，C：1.5点未満）で示すことより、判定される。

ウ 平成28年度評価結果

総合評価：A（3.3） 試験研究機関に期待される役割や目標等に照らし合わせて、質・量の両面において着実に取組みを実施していると評価された。

(2) 調査研究企画・評価委員会

ア 評価対象研究課題

(ア) 中間評価

平成26年度から開始した研究課題1題及び平成28年度から開始した研究課題3題

イ 評価項目

(ア) 中間評価

①必要性 ②進捗状況 ③計画の妥当性 ④目標の達成及び活用の可能性 ⑤総合評価 ⑥継続実施の評価

ウ 評価基準

上記①～⑤の評価項目については5段階評価，⑥については3段階評価

エ 研究課題及び評価結果

(ア) 中間評価

- ・二枚貝が保有する下痢症ウイルスの把握と疫学解析
総合評価：4.3
- ・柑橘類等の残留農薬多成分一斉分析法に関する調査研究
総合評価：4.1
- ・茨城県における結核菌分子疫学解析に関する研究
総合評価：4.4
- ・野生動物における人獣共通感染症の網羅的病原体解析
総合評価：4.4

2 地方衛生研究所全国協議会の連絡調整

協議会の会員機関として，11件の調査等（表1）に協力するとともに，会員機関同士の情報交換を行った。

表1 平成29年度地方衛生研究所全国協議会の調査等一覧

調査名	実施機関等
・病原体検査部門の人員体制等に関する調査	岐阜県保健環境研究所
・研究機関における外部資金獲得のための事務に関する調査	兵庫県健康福祉部社会福祉局社会福祉課
・衛生微生物技術協議会第39回研究会開催に伴うアンケート調査	衛生微生物技術協議会第39回研究会（滋賀県衛生科学センター）
・健康被害危機管理事例（概要情報）の継続調査	地方衛生研究所全国協議会学術委員会（岡山県環境保健センター）
・麻疹・風疹ウイルスの遺伝子解析データ等の情報提供に関するアンケート	国立感染症研究所ウイルス第3部（愛媛県立衛生環境研究所）
・感染症発生动向調査支援ツールの利用状況に関するアンケート調査	北海道立衛生研究所
・地方衛生研究所におけるノロウイルス検査に関するアンケート調査	山口県環境保健センター
・業務進捗管理に係るシステムの導入状況に関する調査	岩手県環境保健研究センター
・地方衛生研究所における薬剤耐性菌検査に関する調査	地方衛生研究所全国協議会感染症対策部会（愛媛県立衛生環境研究所）
・食品衛生検査施設における業務管理に関するアンケート	埼玉県衛生研究所
・地方衛生研究所における研究活動に関する調査	地方衛生研究所全国協議会学術委員会（岡山県環境保健センター）

3 水道水測定分析外部精度管理

水道水の測定分析に従事する検査機関の検査精度の信頼性を確保するため、平成29年度は12水質検査機関を対象に、水道法水質基準項目の「鉄及びその化合物」について外部精度管理を実施した。

各機関の測定結果はGrubbs検定を行ったのち、Zスコア、変動係数及び誤差率により評価した。Grubbs検定では、2機関が棄却されたので、その原因を調査し報告書に取りまとめた。Zスコアでは、7機関が満足、3機関が不満足であったが、機関内変動係数及び誤差率についても考慮すると、全機関とも概ね良好な結果であった。

4 ホームページの運営

研究所全体の概要や各部の業務、試験検査・調査研究の紹介及び最新情報を提供するためホームページを開設し平成15年2月から運営している。なお、平成27年3月に茨城県ホームページシステム変更に伴いリニューアルした。

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/hokenfukushi/eiken/index.html>

ホームページ管理運営委員会を2ヶ月に1回開催、感染症、食品及び医薬品等に関する公衆衛生情報を28件（表2）掲載した。

また、健康プラザの展示スペースや各種イベントでパネルを掲示した（表3）。

表2 平成29年度ホームページ掲載公衆衛生情報

掲載月	タイトル
5月	・エボラ出血熱が発生しています（コンゴ民主共和国バ・ズエレ州）
6月	・細菌部の業務紹介 ・茨城県における日本脳炎浸潤状況について ・茨城県衛生研究所の放射性物質試験検査 ～平成28年度分の検査結果追加しました～ ・海外で注意が必要な感染症 ・レジオネラ症について
7月	・西日本を中心に手足口病が流行しています ・モーリタニアにおいて、クリミア・コンゴ出血熱の発生が確認されました。 ・茨城県における蚊のモニタリング調査について（第1報） ・茨城県における感染症媒介蚊に関する調査（第1報）
8月	・腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう ・手足口病が増加しています！ ・茨城県における蚊のモニタリング調査について（第2報） ・茨城県における感染症媒介蚊に関する調査（第2報）
9月	・手足口病が増加しています！（第2報） ・水道水質検査の外部精度管理調査 ・アニサキスによる食中毒を予防しましょう ・蚊媒介感染症に係る蚊の生息状況調査について ・茨城県衛生研究所の食品中のアレルゲン検査について ・茨城県における蚊のモニタリング調査について（第3報） ・茨城県における感染症媒介蚊に関する調査（第3報）

10月	・ SFTS（マダニが媒介する感染症）に注意しましょう
11月	・ 茨城県における蚊のモニタリング調査について（第4・5報） ・ 茨城県における感染症媒介蚊に関する調査（第4・5報）
12月	・ インフルエンザについて ・ 知っていますか？薬剤耐性菌のこと ・ ウイルス分離培養検査ってなに？ ・ 医薬品の分類

表3 平成29年度パネル掲示公衆衛生情報

掲示月	タイトル	掲示場所等
6月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 細菌部の業務紹介 ・ 茨城県における日本脳炎浸潤状況について ・ 茨城県衛生研究所の放射性物質試験検査～平成28年度分の検査結果追加しました～ ・ 海外で注意が必要な感染症 	健康プラザ
9月～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水道水質検査の外部精度管理調査 ・ アニサキスによる食中毒を予防しましょう ・ 蚊媒介感染症に係る蚊の生息状況調査について ・ 茨城県衛生研究所の食品中のアレルゲン検査について 	
12月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス分離培養検査ってなに？ ・ 知っていますか？薬剤耐性菌のこと ・ 医薬品の種類を知っていますか ・ インフルエンザについて 	
6月21日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茨城県衛生研究所の概要 ・ 麻しん（はしか）にご用心 ・ 蚊媒介感染症に係る蚊の生息状況調査 ・ 食中毒の原因寄生虫 	麻しん対策研修会 （メディカルセンター）
7月28日 ～8月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茨城県衛生研究所の概要 ・ 食中毒菌の検査 ・ 日本脳炎の調査研究 ・ 食品と水の放射性物質試験検査 	県民情報センター 県政広報コーナー （県庁）
9月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食中毒の原因寄生虫 ・ レジオネラ症に注意しましょう 	H29元気アップ いばらき！健康づくり キャンペーン （イオンモール水戸内原）
10月 21日・22日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茨城県衛生研究所の概要 ・ 後発医薬品の試験検査 （展示：生薬標本（12種類），配布：衛生研究所業務紹介パンフレット） 	いばらきのくすり 展（イオンモールつくば）

5 感染症情報センター

県内の感染症発生状況については、感染症発生動向調査における週報・月報等の報告還元業務の他、学校等欠席者・感染症情報システムの管理並びに情報提供を衛生研究所ホームページ等で行っている。

県内の医療機関から報告された二類～五類感染症（全数把握疾患・定点把握疾患）の報告数を表4及び表5に示す。

また、年度末に開催された「平成29年度茨城県感染症対策委員会」においては事務局として概要の説明を行い、「平成29年度茨城県エイズ・性感染症対策委員会」においては、茨城県における梅毒の患者発生状況について説明を行った。

表4 平成29年次全数把握疾患

分類	疾病名	患者報告数
二類	結核	464
三類	細菌性赤痢	1
	腸管出血性大腸菌感染症	90
	腸チフス	2
四類	E型肝炎	10
	A型肝炎	9
	オウム病	1
	つつが虫病	9
	デング熱	8
	マラリア	5
	ライム病	1
	レジオネラ症	49
	レプトスピラ症	1
五類	アメーバ赤痢	15
	急性ウイルス性肝炎（E型及びA型を除く）	6
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	16
	急性脳炎	24
	クリプトスポリジウム症	1
	クロイツフェルト・ヤコブ病	5
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	10
	後天性免疫不全症候群	12
	ジアルジア症	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	50
	水痘（入院に限る）	4
	梅毒	57
	破傷風	4
	風しん	1
	麻しん	1

表5 平成29年次定点把握疾患

定点分類	疾病名	患者 報告数	(定点当たり 患者報告数)
小児科	RSウイルス感染症	2,086	(27.81)
	咽頭結膜熱	1,606	(21.41)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9,096	(121.28)
	感染性胃腸炎	17,505	(233.4)
	水痘	1,311	(17.48)
	手足口病	8,457	(112.76)
	伝染性紅斑	208	(2.77)
	突発性発しん	1,135	(15.13)
	百日咳	26	(0.35)
	ヘルパンギーナ	1,497	(19.96)
	流行性耳下腺炎	709	(9.45)
眼科	急性出血性結膜炎	6	(0.35)
	流行性角結膜炎	956	(56.24)
基幹	細菌性髄膜炎	2	(0.15)
	無菌性髄膜炎	1	(0.08)
	マイコプラズマ肺炎	157	(12.08)
	クラミジア肺炎	0	(0.00)
	感染性胃腸炎	123	(9.46)
	(病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
インフルエンザ	インフルエンザ	35,350	(294.58)
	(高病原性鳥インフルエンザを除く)		

2. 細菌部

1 試験検査の概況

平成29年度試験検査実施状況を表1及び表2に示した。

(1) 感染症発生動向調査事業

ア 細菌の分離同定検査

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により三類感染症として届け出のあった患者の接触者検診、治療後の患者の病原体を保有していないことの確認検査や保健所等から送付された菌株及び三類以外の感染症について試験検査を実施した。

- ・腸管出血性大腸菌(EHEC)検査を便772検体について実施し、検出した血清型は0157:22株, 0103:6株, 0145:2株の計30株であった。(実数)
- ・赤痢菌検査は便8検体について実施したが検出されなかった。
- ・結核患者管理健診・接触者健康診断で採取された29検体の喀痰について結核菌検査を行ったが、塗抹・培養検査とも陰性であった。
- ・レジオネラ属菌検査を4検体の喀痰で実施し2検体から *Legionella pneumophilla*SG1 を分離した。
- ・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)感染症等に係る試験検査を菌株9検体について実施し、2検体からEBC型遺伝子を検出した。
- ・ライム病3検体, ブルセラ症3検体, レプトスピラ症8検体, ジフテリア1検体の遺伝子検査・血清抗体価検査, クリプトコックス1検体, 裂頭条虫1検体の同定検査および侵襲性肺炎球菌8検体の血清型別検査を国立感染症研究所に依頼した。

イ 細菌の分子疫学検査

感染症の集団発生時や広域事例の探知において、感染経路の特定、共通の感染源解明のために分子疫学検査を行った。

- ・結核菌148株についてVNTR法による分子疫学解析を行った。
- ・腸管出血性大腸菌0157の72株についてIS-printing法・MLVA法を行った。

ウ 細菌感染症検査に係る外部精度管理

次の外部精度管理に参加し(全て正しく判定でき)結果は良好であった。

- ・腸管出血性大腸菌0157検査外部精度管理
- ・赤痢菌検査外部精度管理
- ・平成29年度レジオネラ属菌検査外部精度管理

(2) 食品衛生関連事業

ア 食中毒検査

食中毒事例(疑い含む)が75事例発生し、原因物質究明のための細菌検査を行った。

搬入された便379検体, ふきとり227検体, 食材47検体, 吐物1検体の計654検体について主に食中毒細菌11項目の検査を行った。寄生虫の試験検査については虫体9検体, 食材11検体の計20検体について顕微鏡検査・遺伝子検査等を行った。

その結果、カンピロバクター属菌 30 株，黄色ブドウ球菌 26 株，病原性大腸菌 7 株，サルモネラ属菌 6 株，ウェルシュ菌 6 株を検出した。寄生虫の試験検査では食材 3 検体からそれぞれアニサキス，クドア・セプテンブクタータ，クドア・ヘキサクンブタータを検出した。また，アニサキス虫体を 7 検体同定した。

イ 食品衛生法に基づく収去食品検査

茨城県食品衛生監視指導計画に基づき，保健所が行う監視指導に伴い搬入された収去食品等の試験検査を行った。

(ア) 食肉の試験検査

カンピロバクター属菌，サルモネラ属菌，腸管出血性大腸菌（O26, O103, O111, O121, O145及びO157）及び腸内細菌科菌群により汚染された食肉及びその加工品等による食中毒を防止するため食肉120検体の試験検査を行った。

その結果，カンピロバクター属菌が10株，サルモネラ属菌が27株検出された。

(イ) 農産物漬物の試験検査

県内に流通する農産物漬物（原則として浅漬）の安全性を確保するため，漬物 25 検体について大腸菌，腸炎ビブリオの試験検査を行い，すべて陰性だった。

(ウ) 生食用鮮魚介類の試験検査

腸炎ビブリオにより汚染された生食用鮮魚介類による食中毒を防止するため生食用鮮魚介類24検体について試験検査を行い腸炎ビブリオは陰性であった。

(エ) 輸入食品の試験検査

県内に流通する輸入食品の安全を確保するため輸入食品 111 検体（食肉製品 15 検体，清涼飲料水 14 検体，冷凍食品 53 検体，香辛料 3 検体，容器包装詰加熱殺菌食品 2 検体，微生物学的成分規格の定めがない食品 24 検体）について，一般細菌数，E. coli，大腸菌群，黄色ブドウ球菌，サルモネラ属菌，クロストリジウム属菌数，緑膿菌，腸球菌，大腸菌群数，芽胞数，恒温試験，細菌試験のうち，それぞれの食品に対応する検査項目の試験検査を行った。その結果，大腸菌群数検査において 1 件が不適合となった。

(オ) 夏期一斉取締りに伴う収去検査

夏期に多発する食中毒等の食品による事故の防止を図るため，収去食品 157 検体（弁当そうざい 155 検体，洋生菓子 2 検体）について，一般細菌数，大腸菌，大腸菌群，黄色ブドウ球菌のうち，それぞれの食品に対応する検査項目の試験検査を実施した。その結果，一般細菌数検査で 2 検体が基準値を上回った。

(カ) 年末一斉取締りに伴う収去検査

食品流通量が増加する年末及び食中毒患者が最も発生する冬期における食中毒の発生防止を図るため，収去食品等 158 検体（弁当及びそうざい 85 検体，洋生菓子 69 検体，漬物（浅漬） 4 検体）について，一般細菌数，大腸菌，大腸菌群，黄色ブドウ球菌のうち，それぞれの食品に対応する検査項目の試験検査を実施した。その結果，洋生菓子の一般細菌数検査で 5 検体が基準値を上回り，大腸菌群 6 検体，黄色ブドウ球菌 1 検体が陽性となった。

(キ) 認定小規模食鳥処理場衛生状況調査

認定小規模食鳥処理場の衛生状況を把握するため，県内 20 施設において採取し

た拭き取り等 133 検体についてサルモネラ属菌，カンピロバクター属菌の定性試験を行った。その結果，カンピロバクター属菌が 25 検体から，また，サルモネラ属菌が 4 検体から検出された。

(ク) 県内産ヒラメの寄生虫（クドア）汚染状況調査

県内産ヒラメに寄生したクドア・セプテンpunkタータを原因とする食中毒を防止するために実施した。県内産ヒラメ（漁獲水域が県内沖のもの）20尾を検査し，クドア・セプテンpunkタータは検出されなかった。

(ケ) 食品衛生外部精度管理調査

一般財団法人食品薬品安全センター秦野研究所の平成29年度食品衛生外部精度管理調査に参加し一般細菌数測定検査，大腸菌群検査，E. coli検査，黄色ブドウ球菌検査，サルモネラ属菌検査を実施した。その結果は，（全て正しく判定でき）良好であった。

(3) 水道水質調査事業

病原性微生物等実態調査実施要領に基づき，原虫（クリプトスポリジウム・ジアルジア）等の存在状況の実態を把握するため，汚染が疑われる県内4カ所の4浄水場について原水及び浄水の検査を行った。その結果，クリプトスポリジウム，ジアルジア，大腸菌，嫌気性芽胞菌は不検出で，残留塩素と浄水濁度は基準内（原水濁度は基準なし）であった。詳細については，表2のとおりである。

(4) 環境衛生に係る試験検査

レジオネラ症の患者発生時において入浴施設の関連が疑われる場合に，当該施設の浴槽水等のレジオネラ属菌の試験検査を行った。15施設の浴槽水等113検体中，培養法で12検体からレジオネラ属菌が分離された。

(5) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査

医療機器の品質を確保するため，注射針2検体について無菌検査を行い，2検体とも陰性であった。

表1 平成29年度 試験検査実施状況

項目		検体数	検出病原体等 () は検出数
感染症	腸管出血性大腸菌	772	O157(22), O103(6), O145(2)
発生動向調	赤痢菌	8	
査事業関連	結核菌	29	
	レジオネラ属菌	4	<i>L. pneumophilla</i> SG1(2)
	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌	9	EBC型遺伝子(2)
	ライム病	3	
	ブルセラ症	3	
	レプトスピラ症	8	(2)
	ジフテリア	1	
	クリプトコックス	1	
	裂頭条虫	1	日本海裂頭条虫(1)
	侵襲性肺炎球菌	8	血清型 3(1), 29(1), 38(1), 12F(2), 22F(1), 28F(2)
分子疫学	結核菌	148	
検査	腸管出血性大腸菌 O157	72	
食品衛生事 業関連	食中毒(疑い含む)検査	674	カンピロバクター属菌(30) 黄色ブドウ球菌(26) アニサキス(8) 病原性大腸菌(7) サルモネラ属菌(6) ウエルシュ菌(6) クドア・セプテンプレクタータ(1) クドア・ヘキサクンプタータ(1)
	食肉の試験検査	120	サルモネラ属菌(27) カンピロバクター属菌(10)
	農産物漬物の試験検査	25	
	生食用鮮魚介類の試験検査	24	
	輸入食品の試験検査	111	大腸菌群(1)
	夏期一斉取締りに伴う収去 検査	157	一般細菌数(2)
	年末一斉取締りに伴う 収去検査	158	一般細菌数(5), 大腸菌群(6) 黄色ブドウ球菌(1)
	認定小規模食鳥処理場衛生 状況調査	133	カンピロバクター属菌(25) サルモネラ属菌(4)
	県内産ヒラメの寄生虫(クド ア)汚染状況調査	20	
	食品衛生外部精度管理調査	9	
その他	水道水質調査(原水・浄水)	8	
	環境衛生関連(浴槽水等)	113	レジオネラ属菌(12)
	医療機器無菌検査	2	
合計		2621	

表2 病原性微生物等実態調査一覧

検査項目	件 数		計
	水道原水	浄水	
気温	4	4	8
水温	4	4	8
pH	4	4	8
濁度	4	4	8
残留塩素濃度	-	4	4
大腸菌	4	-	4
嫌気性芽胞菌	4	-	4
クリプトスポリジウム	4	4	8
ジアルジア	4	4	8
合 計	32	28	60

調査地点	芦野倉浄水場	大子町
	上岡浄水場	大子町
	西金浄水場	大子町
	頃藤浄水場	大子町

2 調査研究

(1) VNTR 法を用いた結核菌分子疫学解析によるデータベース作成のための調査研究

結核菌の分子疫学解析の一つである VNTR 法を用いて保健所から搬入された結核菌の遺伝子情報を解析し、菌の疫学情報や伝播状況などの近縁関係を調査する。

平成 29 年度より県内全ての結核菌収集を目指し、本年度は結核菌 148 株について 24 領域 VNTR 法による解析を実施した。148 株の内、2 株以上で同じ VNTR パターンを示したものが 8 組存在しており、クラスター形成率は 13.5%であった。

(2) 茨城県内流通食肉から検出されたサルモネラ属菌の薬剤耐性状況に関する調査研究

茨城県内流通食肉から検出されたサルモネラ属菌 82 株に対して薬剤耐性検査(薬剤感受性試験・薬剤耐性遺伝子検査)を行い、薬剤耐性サルモネラ属菌の検出状況について調査を行った。その結果、82 株のうち 7 株が第 3 世代セファロsporin系抗菌薬に耐性を示すことが確認され、うち 6 株からは CMY-2 型遺伝子が検出された。また、ナリジクス酸耐性株は 11 株検出された。

3. ウイルス部

1 試験検査の概況

(1) 感染症発生動向調査事業等

平成29年度感染症発生動向調査事業に係る検査件数を表1に示した。

表1 平成29年度 感染症発生動向調査事業に係る検査件数

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数	
				遺伝子 検査	分離 培養
4 類感染症 (全数届出疾患)	E 型肝炎	7	E 型肝炎ウイルス 1 型	1	—
			E 型肝炎ウイルス 3 型	1	—
			E 型肝炎ウイルス 4 型	1	—
			E 型肝炎ウイルス 型不明	2	—
	A 型肝炎	22	A 型肝炎ウイルス IA 型	1	—
			A 型肝炎ウイルス IIIA 型	5	—
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	2	—	—	—
			—	—	—
	つつが虫病	7	<i>Orientia tsutsugamushi</i> Karp 型	3	—
			<i>Orientia tsutsugamushi</i> Kawasaki 型	2	—
			<i>Orientia tsutsugamushi</i> Kuroki 型	1	—
			EB ウイルス	1	—
	日本紅斑熱	1	—	—	—
	チクングニア熱・ デング熱・ジカ熱	10	デングウイルス 2 型	5	—
デングウイルス 3 型			1	—	
ムンプスウイルス			1	—	
5 類感染症 (全数届出疾患)	急性脳炎・脳症	92	エンテロウイルス属(型別不明)	4	—
			エコーウイルス 3 型	1	—
			エコーウイルス 6 型	1	—
			コクサッキーウイルス A5 型	1	—
			コクサッキーウイルス A6 型	3	—
			コクサッキーウイルス B4 型	1	—
			ヒトパレコウイルス	3	—
			単純ヘルペスウイルス 1 型	1	—
			EB ウイルス	1	—
			サイトメガロウイルス	1	—
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	21	—
			ヒトヘルペスウイルス 7 型	6	—
			水痘・帯状疱疹ウイルス	1	—
			アデノウイルス	1	—
			ムンプスウイルス	1	—
			インフルエンザウイルス AH1pdm09	2	—

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数	
				遺伝子 検査	分離 培養
			インフルエンザウイルス AH3	4	—
			インフルエンザウイルス B (Yamagata 系統)	5	—
			インフルエンザウイルス B (Victoria 系統)	1	—
			RS ウイルス	1	—
			ライノウイルス	3	—
			ヒトボカウイルス	1	—
			パラインフルエンザウイルス 2 型	1	—
			パラインフルエンザウイルス 3 型	2	—
			ノロウイルス GII	2	—
			サポウイルス	1	—
			アストロウイルス	1	—
			A 群ロタウイルス	2	—
	風しん	8	—	—	—
	麻しん	38	麻しんウイルス A 型	1	—
			麻しんウイルス B3 型	2	2
			麻しんウイルス D8 型	1	1
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	3	—
			ムンプスウイルス	1	—
			アデノウイルス	1	—
5 類感染症 (定点把握疾患)	感染性胃腸炎	4	ノロウイルス GII	1	—
			A 群ロタウイルス	1	—
			アストロウイルス	1	—
			アデノウイルス	1	—
			エンテロウイルス属(型別不明)	1	—
	手足口病	22	エンテロウイルス 71 型	4	4
			エコーウイルス 3 型	1	1
			エコーウイルス 9 型	1	—
			エコーウイルス 30 型	1	1
			コクサッキーウイルス A6 型	6	3
			ヒトパレコウイルス	5	—
			EB ウイルス	2	—
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	1	—
			アデノウイルス	1	1
			パラインフルエンザウイルス 2 型	1	—
	ヘルパンギーナ	2	エンテロウイルス 71 型	1	1
			エンテロウイルス属(型別不明)	1	—
	突発性発疹	3	ヒトヘルペスウイルス 6 型	3	—
	RS ウイルス感染症	1	RS ウイルス	1	—
	インフルエンザ	138	インフルエンザウイルス AH1pdm09	15	15

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数	
				遺伝子 検査	分離 培養
			インフルエンザウイルス AH3	39	23
			インフルエンザウイルス B (Yamagata 系統)	78	72
			インフルエンザウイルス B (Victoria 系統)	3	3
	無菌性髄膜炎	54	エンテロウイルス属(型別不明)	1	—
			エンテロウイルス 71 型	3	3
			エコーウイルス 3 型	1	1
			エコーウイルス 6 型	1	1
			エコーウイルス 30 型	2	1
			コクサッキーウイルス A9 型	1	1
			コクサッキーウイルス B2 型	1	—
			ヒトパレコウイルス	2	—
			ムンプスウイルス	2	—
			水痘・帯状疱疹ウイルス	2	—
			EB ウイルス	1	—
			サイトメガロウイルス	2	—
			アデノウイルス	2	2
			インフルエンザウイルス AH3	1	—
			ライノウイルス	2	—
			ヒトボカウイルス	1	—
その他	その他 (呼吸器感染症等)	102	サイトメガロウイルス	1	—
			ヒトヘルペスウイルス 6 型	4	—
			ヒトヘルペスウイルス 7 型	4	—
			エンテロウイルス属(型別不明)	7	—
			ヒトパレコウイルス	4	—
			アデノウイルス	4	—
			RS ウイルス	6	—
			ライノウイルス	17	—
			ヒトボカウイルス	5	—
			インフルエンザウイルス AH1pdm09	4	—
			インフルエンザウイルス AH3	3	—
			インフルエンザウイルス B (Yamagata 系統)	1	—
			パラインフルエンザウイルス 1 型	1	—
			パラインフルエンザウイルス 2 型	3	—
			パラインフルエンザウイルス 3 型	3	—
			パラインフルエンザウイルス 4 型	2	—
			ヒトメタニューモウイルス	7	—
			ヒトコロナウイルス(HKU1)	1	—
			ノロウイルス GII	1	—

感染症の類型	臨床診断名	検体数 (人)	検出病原体名	ウイルス検出件数	
				遺伝子 検査	分離 培養
合計(人)		513		379	136
集団感染事例	インフルエンザ	76	インフルエンザウイルス AH1pdm09	38	24
			インフルエンザウイルス AH3	13	2
			インフルエンザウイルス B (Yamagata 系統)	18	12
	感染性胃腸炎	350	ノロウイルス GI	1	—
			ノロウイルス GII	272	—
			サポウイルス	32	—
			A 群ロタウイルス	8	—
			アデノウイルス	14	—
			アストロウイルス	2	—
			エンテロウイルス属(型別不明)	1	—
			エコーウイルス 3 型	2	—
	呼吸器感染症	28	RS ウイルス	3	—
			パラインフルエンザウイルス 3 型	11	—
			ヒトメタニューモウイルス	4	—
食中毒・ 有症苦情	感染性胃腸炎	414	ノロウイルス GI	4	—
			ノロウイルス GII	120	—
			サポウイルス	11	—
合計(人)		868		554	38

ア インフルエンザ

病原体定点医療機関から提出のあった138検体、集団発生76検体の合計214検体について遺伝子検査及び分離培養・同定検査を実施した。その結果、AH1pdm09 53件、AH3 52件、B(Yamagata系統) 96件、B(Victoria系統) 3件が検出された。

イ 感染性胃腸炎

病原体定点医療機関から提出のあった4検体、下痢症ウイルスによる集団感染等が疑われた73事例350検体、合計354検体について、ノロウイルス、サポウイルス、A群・C群ロタウイルス、アデノウイルス、アストロウイルス及びエンテロウイルス属の遺伝子検査を実施した。その結果、ノロウイルス274件(GI: 1件、GII: 273件)、サポウイルス32件、A群ロタウイルス9件、アデノウイルス15件、アストロウイルス3件、エンテロウイルス属(型別不明)2件、エコーウイルス3型2件が検出された。

ウ デング熱・チクングニア熱・ジカ熱

海外を推定感染地域とする10名の検査を実施したところ、デングウイルス2型5件、デングウイルス3型1件、ムンプスウイルス1件が検出された。

エ 麻しん・風しん

麻しん及び風しん疑い患者46名の遺伝子検査及び分離培養検査を行ったところ、麻しんウイルスA型1件、B3型2件、D8型1件が検出された。麻しん及び風しんウイルス

が検出されなかった検体について、他のウイルスの検索を行った結果、ヒトヘルペスウイルス6型3件、ムンプスウイルス1件、アデノウイルス1件が検出された。

オ 急性脳炎

急性脳炎・脳症（疑い例を含む）の患者92名の血清，髄液，咽頭ぬぐい液，糞便等を用いて，遺伝子検査を実施した。その結果，ヒトヘルペスウイルス6型21件，ヒトヘルペスウイルス7型6件，単純ヘルペスウイルス1型1件，EBウイルス1件，水痘・帯状疱疹ウイルス1件，サイトメガロウイルス1件，エンテロウイルス属11件，ヒトパレコウイルス3件，アデノウイルス1件，ムンプスウイルス1件，インフルエンザウイルス12件（AH1pdm09：2件，AH3：4件，B（Yamagata系統）：5件，B（Victoria系統）：1件），RSウイルス1件，ライノウイルス3件，ヒトボカウイルス1件，パラインフルエンザウイルス2型1件，パラインフルエンザウイルス3型2件，ノロウイルスGII 2件，サポウイルス1件，アストロウイルス1件，A群ロタウイルス2件が検出された。

カ A型肝炎・E型肝炎

A型肝炎患者22名からA型肝炎ウイルスⅠA型1件，ⅢA型5件が検出された。

E型肝炎患者7名からE型肝炎ウイルス1型1件，3型1件，4型1件，型別不明2件が検出された。

キ 無菌性髄膜炎・手足口病・ヘルパンギーナ

無菌性髄膜炎54名，手足口病22名，ヘルパンギーナ2名の検体について遺伝子検査，分離培養・同定検査を実施した。無菌性髄膜炎からエンテロウイルス属10件，ヒトパレコウイルス2件，ムンプスウイルス2件，水痘・帯状疱疹ウイルス2件，EBウイルス1件，サイトメガロウイルス2件，アデノウイルス2件等が検出された。手足口病では，エンテロウイルス属13件，ヒトパレコウイルス5件，EBウイルス2件，ヒトヘルペスウイルス6型1件等が検出された。ヘルパンギーナでは，エンテロウイルス属が2件検出された。

ク 呼吸器感染症（集団発生事例）

6施設28検体の検体の提出があり，原因追究に貢献した（表2）。

表2 平成29年度 呼吸器感染症集団発生事例病原体検出状況

検体採取日	保健所名	施設種類	検出病原体名
4月20日	筑西	医療機関	ヒトメタニューモウイルス
7月28日	筑西	老人保健施設	パラインフルエンザウイルス3型
8月25日	土浦	医療機関	パラインフルエンザウイルス3型
8月28日	古河	障害者施設	RSウイルス
10月28日, 30日	土浦	老人保健施設	—
1月10日	水戸	医療機関	—

(2) 性感染症対策に関する試験検査

水戸及び土浦保健所で実施しているエイズスクリーニング検査（簡易迅速法）について，職員を派遣し検査を実施した（表3）。

表3 エイズスクリーニング検査実施状況

	水戸保健所	土浦保健所	合計
検査数	253	333	586
陽性・判定保留	4	7	11
陰性	249	326	575

(3) 食品衛生対策に関する試験検査

ア 有症者及び従業員等の検査

食中毒（疑い例，有症苦情等を含む）62事例414検体について，ノロウイルス，サポウイルス，A群・C群ロタウイルス，アデノウイルス，アストロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果，ノロウイルス124件（GI：4件，GII：120件），サポウイルス11件が検出された。

イ 食品検査・ふき取り検査

食中毒の原因食品として疑われた食品・食材（生牡蠣等）11検体とふき取り50検体について，ノロウイルスの遺伝子検査を実施した。その結果，食品・食材（生牡蠣等）からノロウイルス3件（GI：1件，GII：2件），ふき取りからノロウイルスGII 3件検出された。

ウ 二枚貝のノロウイルス検査

茨城県産の二枚貝（岩牡蠣，ハマグリ，ホッキ貝）30検体（1検体10個）のノロウイルスの遺伝子検査を実施したところ，すべて不検出（検出限界値以下）であった。

(4) 職員の健康管理事業に関する検査

茨城県の「保健所及び衛生研究所に勤務する職員のB型肝炎検査及びワクチン接種実施要領」に基づき，保健所等職員100名について，B型肝炎の血清学的検査（HBs抗原検査100検体，HBs抗体検査105検体）を実施した。

2 調査研究

(1) 感染症流行予測調査

ア 日本脳炎感染源調査

ブタが日本脳炎ウイルスの増幅動物になっていることから，ブタ血清中の日本脳炎ウイルスに対する抗体価を測定することでその侵淫度を調査し，日本脳炎の流行を把握するために実施した。

平成29年7月から9月にかけて，(株)茨城県中央食肉公社に集荷された生後6カ月の県内産のブタから8回，1回あたり10頭を目安に採血した。採血した合計119検体について，血清中の日本脳炎ウイルスに対する赤血球凝集抑制抗体（HI抗体）価を測定した。

その結果は表4のとおり，HI抗体の上昇は認められず，日本脳炎ウイルスの県内侵入は確認できなかった。

表4 平成29年度と畜場搬入豚の日本脳炎ウイルスに対する抗体保有状況

検体採取日	検査頭数	HI抗体価							HI抗体陽性頭数	HI抗体陽性%	2ME感受性※		養豚場所
		<10	10	20	40	80	160	320			≥640	検査数	
7月10日	10								0	0			土浦市
7月24日	19								0	0			銚田市・土浦市
8月4日	10								0	0			銚田市
8月21日	10								0	0			土浦市
8月28日	12								0	0			銚田市・土浦市
9月4日	20								0	0			銚田市・茨城町
9月11日	18								0	0			銚田市・土浦市
9月28日	20								0	0			銚田市・茨城町
計	119								0	0			

※ 2-ME感受性抗体は、HI抗体価1：40以上であった検体について検査した。

2-ME処理を行った血清のHI抗体価が未処理の血清（対照）と比較して、8倍（3管）以上低かった場合を陽性（+）、4倍（2管）低かった場合を偽陽性（±）、不変または2倍（1管）低かった場合を陰性（-）と判定した。

なお、対照のHI抗体価は1：40で、2-ME処理を行った血清が1：10未満であった場合は陽性と判定した。

イ インフルエンザ感受性調査

インフルエンザウイルスに対する血清中の抗体を測定することでヒトの免疫状況を把握し、次シーズンの流行予測に役立てるために実施した。

平成29年7月から10月に各年齢群ごとに採血した215名の血清について、赤血球凝集抑制抗体（HI抗体）検査を実施した。

使用したHA抗原は、次の4種である。

- ・A/Shingapore/GP1908/2015 (IVR-180) (H1N1) pdm09
- ・A/HongKong/4801/2014 (H3N2)
- ・B/Phuket/3073/2013 (Yamagata系統)
- ・B/Texas/2/2013 (Victoria系統)

各抗原に対する各年齢区分の抗体保有者数等の結果を表5に示した。なお、感染防御の目安とされるHI抗体価1:40以上を抗体保有者として、抗体保有率を算出した。

表5 年齢区分別インフルエンザ抗体保有状況

年齢区分 (歳)	人数 (人)	抗体保有人数(保有率)			
		A/Shingapore/GP1908/ 2015(IVR-180) (H1N1)pdm09	A/HongKong/4801/ 2014(H3N2)	B/Phuket /3073/2013 (Yamagata 系統)	B/Texas/2/2013 (Victoria 系統)
0～4	30	3 (10.0%)	9 (30.0%)	3 (10.0%)	0 (0.0%)
5～9	17	3 (17.6%)	15 (88.2%)	5 (29.4%)	1 (5.9%)
10～14	15	7 (46.7%)	11 (73.3%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)
15～19	11	9 (81.9%)	10 (90.9%)	6 (54.5%)	2 (18.2%)
20～29	19	11 (57.9%)	13 (68.4%)	13 (68.4%)	0 (0.0%)
30～39	28	3 (10.7%)	11 (38.3%)	13 (46.4%)	1 (3.6%)
40～49	31	2 (6.5%)	11 (35.5%)	3 (9.7%)	3 (9.7%)
50～59	36	5 (13.9%)	9 (25.0%)	9 (25.0%)	3 (8.3%)
60～	28	0 (0.0%)	17 (60.7%)	4 (14.3%)	2 (7.1%)
合計	215	43 (20.0%)	106 (49.3%)	58 (27.0%)	12 (5.6%)

ウ 麻疹風疹感受性調査

麻疹ウイルス及び風疹ウイルスに対するヒト血清中の抗体保有状況を調査し、麻疹及び風疹ワクチン接種効果を調査するとともに、今後の流行予測を予測することを目的として実施した。

平成29年7月から10月にかけて各年齢群に採取された血清215検体について、「セロディア・麻疹」（富士レビオ）を用い麻疹PA抗体価を測定し、赤血球凝集抑制抗体（HI抗体）検査で風疹抗体価を測定した。

麻疹PA抗体価の結果を表6に、風疹HI抗体価の結果を表7に示した。

表6 年齢区分別麻しん PA 抗体保有状況

年齢区分 (歳)	P A 抗体価											合計 (人)
	<16	16	32	64	128	256	512	1024	2048	4096	8192 \leq	
0~1	2		1	1	1	1	5	1	1	1		14
2~3					1	1	3		2	2		9
4~9					3	2	3	11	4	1		24
10~14					2	3	6	2	1	1		15
15~19						3	1	4	2	1		11
20~24					1	6	4					11
25~29	1					2	2		1	1	1	8
30~39				1	3	9	7	6	1	1		28
40~			1	1	11	14	19	20	21	6	2	95
合計	3		2	3	22	41	50	44	33	14	3	215

表7 年齢区分別風しん HI 抗体保有状況

年齢区分 (歳)	H I 抗体価										合計 (人)
	<8	8	16	32	64	128	256	512	1024 \leq		
0~3	3	1	3	4	3	2	6		1		23
4~9			1	4	13	5	1				24
10~14	1			12	1	1					15
15~19				5	3	3					11
20~24				4	7						11
25~29	1		1	2	4						8
30~34			1	5	8	2	3				19
35~39	1		1	4	1	2					9
40~	6		10	22	26	26	3	1	1		95
合計	12	1	17	62	66	41	13	1	2		215

(2) イノシシのE型肝炎ウイルス保有状況調査

県内の野生イノシシが保有するE型肝炎ウイルスの実態を明らかにするとともに、イノシシ肉を安全に取扱う（解体、喫食等）ための県民への注意喚起の基礎データを得ることを目的として実施した。実施状況を表8に示した。

表8 県内における野生イノシシのE型肝炎ウイルス保有状況

市名	遺 伝 子 検 査			抗 体 検 査		
	検体数 (頭)	陽性数 (頭)	陽性率 (%)	検体数 (頭)	陽性数 (頭)	陽性率 (%)
A市	18	0	0	18	7	38.8
B市	8	0	0	8	—	—
C市	22	5	22.7	22	—	—
合計	48	5	10.4	48	—	—

4. 理化学部

1 食品試験検査の概況

平成29年度食品試験検査実施状況は、表1のとおりである。

表1 平成29年度食品試験検査実施状況

項目	検体数	項目数	件数
(1) 輸入加工食品残留農薬試験検査（有機リン系農薬）	50	42	2,100
(2) 遺伝子組換え食品試験検査	10	1	10
(3) 県外産農産物残留農薬試験検査	20	100～135	2,406
(4) 輸入野菜残留農薬試験検査	50	100～133	5,715
(5) 加工食品中アレルギー物質試験検査	48	各1	48
(6) 漬物の添加物試験検査	25	1	25
(7) 輸入食品試験検査			
ア 柑橘類の残留農薬	25	11	275
イ 乾燥果実・煮豆、ワイン、菓子の食品添加物	85	各1	85
ウ 農産物漬物原材料の食品添加物	25	1	25
エ 食品等輸入者取扱い食品検査			
ソルビン酸	12	1	12
指定外酸化防止剤（TBHQ）	12	1	12
(8) 加工食品放射性物質試験検査	96	2	192
(9) イノシン肉の放射性物質試験検査	5	2	10
(10) 食中毒・苦情食品・違反食品等の行政検査	9	1	9
合計	472		10,924

(1) 輸入加工食品残留農薬試験検査（有機リン系農薬）

平成29年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成29年度輸入加工食品の残留農薬試験検査実施要領に沿って、輸入加工食品50検体について42項目の有機リン系農薬の検査を実施した結果、全て不検出であった。

[測定項目]

E P N, クロロピリホス, シアノホス, ジクロロボス, ダイアジノン, チオメトン, フェニトロチオン, ブタミホス, マラチオン, メタミドホス, 他32成分

(2) 遺伝子組換え食品試験検査

平成29年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成29年度遺伝子組換え食品の試験検査実施要領に沿って、大豆10検体について遺伝子組換え体（ラウンドアップレディ大豆）の含有検査を実施した結果、全て検出下限値（0.3%）未満であった。

(3) 県外産農産物残留農薬試験検査

平成29年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成29年度県外産農産物の試験検査実施要領に沿って、県外で生産された野菜20検体（ダイコン4検体、ニンジン4検体、キャベツ5検体、レタス1検体、キュウリ1検体、トマト3検体、ブロッコリー1検体、パプリカ1検体）について農薬100～135項目の検査を実施した。結果は、以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが、全て基準値以下であった。

- ・キュウリ1検体からアゾキシストロビンが検出された。
- ・キャベツ1検体からイミダクロプリド、他1検体からプロシミドンが検出された。
- ・ダイコン1検体からホスチアゼートが検出された。
- ・ブロッコリー1検体からチアメトキサムが検出された。

[測定項目]

アザコナゾール、イサゾホス、イソカルボホス、イソプロチオラン、ウニコナゾールP、エチオン、エトリムホス、クレソキシムメチル、クロルタルジメチル、クロルピリホス、クロルピリホスメチル、クロルフェンソン、クロルフェンビンホス、シアナジン、シアノフェンホス等

(4) 輸入野菜残留農薬試験検査

平成29年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成29年度輸入野菜の試験検査実施要領に沿って、輸入野菜を2回に分けて、各25検体、計50検体について農薬100～133項目の検査を実施した。

検査を行った野菜は、第1回は、ブロッコリー7検体、パプリカ4検体、サトイモ4検体、たけのこ3検体、未成熟インゲン3検体、アスパラガス2検体、ほうれん草1検体、トマト1検体、第2回は、かぼちゃ5検体、パプリカ4検体、たけのこ3検体、ブロッコリー、アスパラガス、カリフラワー、トマト各2検体、ほうれん草、ピーマン、未成熟エンドウ、ニンジン、さといも各1検体である。

結果は、以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが、全て基準値以下であった。

(第1回の結果)

- ・パプリカ1検体からペンコナゾールが検出された。
- ・ブロッコリー2検体からペルメトリンが検出された。
- ・ほうれん草1検体からイミダクロプリドが検出された。

(第2回の結果)

- ・かぼちゃ3検体からイミダクロプリドが検出され、うち1検体はミクロブタニルが検出され、もう1検体はチアメトキサムが検出された。
- ・パプリカ1検体から、クレソキシムメチルが検出された。
- ・ほうれん草1検体から、イミダクロプリド、クロチアニジンが検出された。
- ・未成熟エンドウ1検体から、オメトエートが検出された。

[測定項目]

アトラジン、イサゾホス、イソプロチオラン、ウニコナゾールP、エチオン、エディフェンホス、エトリムホス、クレソキシムメチル、クロルピリホス、クロルピリホ

スメチル，クロルフェンゾン，サリチオン，シアノフェンホス，ジクロフェンチオン，ジクロブトラゾール，チオベンカルブ等

(5) 加工食品中のアレルギー物質試験検査

平成29年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成29年度アレルギー物質を含む食品の試験検査実施要領に沿って，加工食品48検体について，食品衛生法上表示義務のある特定原材料（乳24検体，卵24検体）の検査を実施した結果，当該成分が検出されものはなかった。

(6) 漬物の添加物試験検査

平成29年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成29年度農産物漬物の試験検査実施要領に沿って，漬物25検体について食品添加物（ソルビン酸）の検査を実施した結果，全て基準値以下であった。

(7) 輸入食品試験検査

平成29年度茨城県食品衛生監視指導計画及び平成29年度輸入食品の試験検査実施要領に沿って輸入食品の検査を実施した。

ア 柑橘類の残留農薬

柑橘類25検体（グレープフルーツ10，オレンジ8，レモン7）について有機リン系農薬11項目の検査を実施した。結果は，以下のとおり農薬成分が検出された検体もあったが，全て基準値以下であった。

- ・グレープフルーツの2検体からクロルピリホスが検出された。
- ・オレンジの5検体からクロルピリホスが検出された。
- ・レモンの2検体からクロルピリホスが検出された。

[測定項目]

エトリムホス，キナルホス，クロルピリホス，トルクロホスメチル，パラチオンメチル，ピラクロホス，フェニトロチオン，プロチオホス，マラチオン，ピリミホスメチル，クロルフェンビンホス

イ 乾燥果実・煮豆，ワイン，菓子の食品添加物

輸入食品35検体（乾燥果実10，煮豆3，ワイン22）について二酸化硫黄（亜硫酸塩）の検査を実施した結果，全て基準値以下であった。

輸入食品50検体（菓子50）について，TBHQ*の検査を行った結果，全て不検出であった。

※ TBHQ：tert-ブチルヒドロキノン（指定外酸化防止剤）

ウ 農産物漬物原材料の食品添加物

輸入農産物漬物原材料（漬物を含む。）25検体についてソルビン酸の検査を実施した結果，全て基準値以下であった。

エ 食品等輸入者取扱食品の食品添加物

輸入食品12検体（ワイン9，漬物3）についてソルビン酸の検査を実施した結果，

全て基準値以下であった。

輸入食品12検体（菓子12）について、TBHQの検査を行った結果、全て不検出であった。

（8）加工食品の放射性物質試験検査

平成29年度茨城県食品衛生監視指導計画に沿って、県内事業者が製造した以下の加工食品96検体（飲用水2，牛乳2，乳児用食品3，一般食品89）について放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の検査を実施した結果、一般食品3検体からセシウム137が検出されたが基準値以下であった。

（9）イノシシ肉の放射性物質試験検査

平成29年度イノシシ肉の放射性物質検査実施要領に沿って、県の「出荷・検査方針」に基づき捕獲・処理されたイノシシの肉5検体について放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の検査を実施した結果、5検体からセシウム137が検出されたが基準値以下であった。

（10）食中毒・苦情・違反食品等の行政検査

保健所等に有症苦情や苦情の届け出のあった食品9検体について、以下のとおり原因究明のための検査を実施した。

- ・みそ汁1検体及びいもがら（乾燥品）1検体について、シュウ酸カルシウムの検査を実施したところ、シュウ酸カルシウム特有の針状結晶及び束晶（針状結晶の束）が観察された。
- ・給食の保存検食6検体及びつみれ汁1検体についてヒスタミンの検査を実施したところ、いわしのすり身、つみれ汁中のつみれと汁からヒスタミンが検出された。

（11）外部精度管理

財団法人食品薬品安全センター秦野研究所が行う平成29年度食品衛生外部精度管理調査に参加し、食品添加物検査（シロップ中の安息香酸の定量）、残留農薬検査（とうもろこしペースト中のクロルピリホス及びフェントエートの定量）を実施したところ、結果は全て良好であった。また、同研究所が実施する特定原材料検査外部精度管理調査研究に参加し、卵のエライザ検査（ベビーフード及びかぼちゃペースト中の卵）を実施したところ、全て良好であった。

2 医薬品等試験検査の概況

平成29年度医薬品等試験検査実施状況は表2のとおりである。

表2 平成29年度医薬品等試験検査実施結果

項目	検体数	項目数	件数
(1) 県内流通医薬品等試験検査	50	1	50
(2) 医薬品等一斉監視指導に係る試験検査	12	1	12
(3) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査	1	1	1
(4) 家庭用品試買試験検査			
メタノール, テトラクロエチレン, トリクロエチレン	9	3	27
アゾ化合物	9	24	216
ホルムアルデヒド	132	1	132
(5) 無承認無許可医薬品試験検査			
ダイエット食品	25	8	200
強壯食品	25	7	175
(6) 危険ドラッグ買上検査	10	(815)*	(8150)
(7) 苦情等に係る行政検査	5	1~2	6
合計	278		819

*(スクリーニング対象項目)

(1) 県内流通医薬品等試験検査

平成29年度県内流通医薬品等試験検査実施要領に沿って、以下の医薬品等50検体について定量試験を実施した。結果は薬局製剤1検体が不適合であった。

日本薬局方医薬品

モンテルカストナトリウム錠	15検体
サルボグレラート塩酸塩錠	12検体
ドネペジル塩酸塩錠	18検体
薬局製剤(エテンザミド含有製剤)	5検体

(2) 医薬品等一斉監視指導に係る試験検査

平成29年度茨城県医薬品等一斉監視指導実施要領(第4後発医薬品品質確保対策)に沿って、アゼルニジピン錠12検体について溶出試験を実施した。結果は、全て適合であった。

(3) 医療機器一斉監視指導に係る試験検査

平成29年度医療機器一斉監視指導実施要領に沿って、麻酔キット1検体について外観試験を実施した。結果は、適合であった。

(4) 家庭用品試買試験検査

平成29年度家庭用品試買試験検査実施要領に沿って実施した。

- ・家庭用エアゾル製品9検体について、メタノール、テトラクロエチレン及びトリクロエチレンの試験を実施した結果、全て基準値以下であった。
- ・繊維製品、つけまつげ用接着剤等132検体について、ホルムアルデヒドの試験を実施し

た結果、全て基準値以下であった。

- ・繊維製品 9 検体について、アゾ化合物24項目の試験を実施した結果、全て不検出であった。

[アゾ化合物測定項目]

4-アミノジフェニル、オルト-アニシジン、オルト-トルイジン、4-クロロ-2-メチルアニリン、2,4-ジアミノアニソール、4,4'-ジアミノジフェニルエーテル、4,4'-ジアミノジフェニルスルフィド等

(5) 無承認無許可医薬品試験検査

平成29年度無承認無許可医薬品対策事業実施要領に沿って、ダイエットを目的とする製品25検体及び強壯作用を目的とする製品25検体について、以下の成分の試験を実施した。ダイエットを目的とする製品のうち1検体からセンノシドが検出されたが、医薬品医療機器等法上問題のあるものはなく、他の成分はすべて不検出であった。

ダイエット成分：エフェドリン、ノルエフェドリン、シブトラミン、脱N-ジメチルシブトラミン、オリスタット、フェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、センノシド

強壯成分：シルденаフィル、バルденаフィル、チオキナピペリフィル、タダラフィル、ヒドロキシホモシルденаフィル、アミノタダラフィル、クロロプレタダラフィル

(6) 危険ドラッグ買上検査

平成29年度危険ドラッグ買上検査実施要領に沿って、指定薬物の含有が疑われる商品10検体について、指定薬物等のスクリーニング検査を実施したところ、全て不検出であった。

[スクリーニング項目]

4-MePPP, NNEI, 5F-NNEI, 4-Methyl buphedrone, PV8, 4-MeO- α -PVP, XLR-12, PV9, 5F-MN-18, MN-18, 5F-AB-PINACA, FUB-PB-22等

(7) 苦情等に係る行政検査

薬務課が収去した無承認医薬品疑いの製品 5 検体について、テトラサイクリン塩酸塩等医薬品成分の検査を行ったところ、全ての製品から、容器に表記された各医薬品成分が検出された。

3 飲用水水質検査の概況

(1) 水道水中の放射性物質モニタリング

平成29年3月6日付け茨城県保健福祉部生活衛生課長通知「平成29年度水道水放射性物質モニタリングの実施について（通知）」に基づき、水道水216検体の放射性物質（セシウム134及びセシウム137）の検査を実施した結果、全て不検出であった。

実施状況は、表3のとおりである。

表3 平成29年度水道水放射性物質モニタリング（H29.4～H30.3）実施結果

採水地点	水源	検体数	項目数	件数
日立市 森山浄水場（水道水・原水）	久慈川	22	2	44
日立市 十王浄水場（水道水・原水）	十王川	22	2	44
北茨城市 中郷浄水場（水道水・原水）	大北川	22	2	44
県南水道事業団				
龍ヶ崎市 若柴配水場（水道水）	西浦	11	2	22
取手市 戸頭配水場（水道水）	利根川	11	2	22
取手市 藤代配水場（水道水）	利根川	11	2	22
牛久市 牛久配水場（水道水）	利根川	11	2	22
利根町 利根配水場（水道水）	利根川	11	2	22
東海村 外宿浄水場（水道水）	久慈川	12	2	24
水戸市 楮川浄水場（水道水）	那珂川	12	2	24
鹿嶋市 鹿嶋市役所（水道水）	北浦	12	2	24
守谷市 守谷浄水場（水道水）	利根川	11	2	22
桜川市 岩瀬庁舎（水道水）	西浦	12	2	24
常陸太田市 瑞竜浄水場（原水）	地下水	12	2	24
常陸太田市 水府北部浄水場（浄水）	山田川	12	2	24
神栖市 若松緑地（水道水）	鱒川	12	2	24
合計		216		432